

～男女共同参画社会の実現に向けて～

モア MORE

ひとひと
幸手市女と男の情報紙
第21号 2016

モア(MORE)とは、女と男がより豊かに、より素晴らしい男女共同参画社会実現への願いを込めて命名しました。



絵・デザイン 三澤昭人 作

- ◆あなたの家庭の役割分担はどうですか？
- ◆日本女性会議2015倉敷
- ◆第24回埼葛人権を考えるつどい
- ◆働く女性としてそして母として



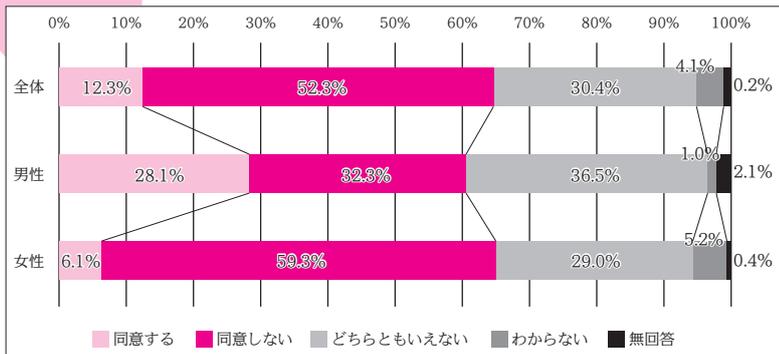
幸手市のマスコットキャラクター
さっちゃん

男女共同参画について考えてみよう あなたの家庭の役割分担はどうですか？

幸手市健康福祉まつり（2015年11月1日（日）ウェルス幸手にて開催）のときに男女共同参画意識アンケートに協力していただきました。また、たくさんの市民の方々にもご協力いただき、ありがとうございました。その結果の一部を紹介します。

【アンケート回答数 342のうち男性96、女性231、性別無回答15】

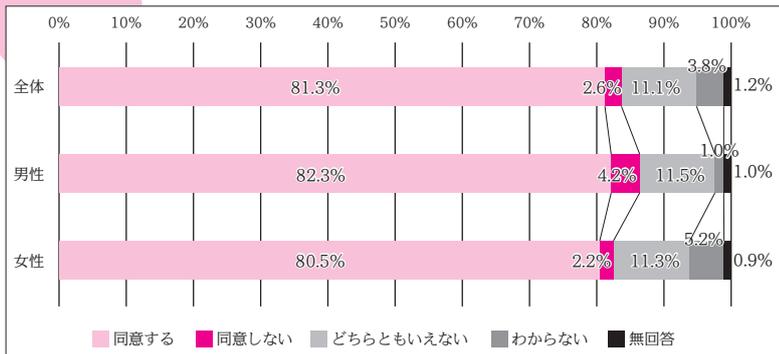
「男は仕事、女は家庭」という考え方（性別役割分担意識）についてどう思いますか？



男女とも「同意しない」の割合が高いが、「どちらともいえない」の割合も30.4%と高い。これは、共働き、職種などの事情によりそのような意識をもっていると思われます。

また、グラフから男性が「同意する」割合が高いので低くなることを望みます。お互いの努力で同意しない人が増えてほしいと考えます。

男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよいと思いますか？

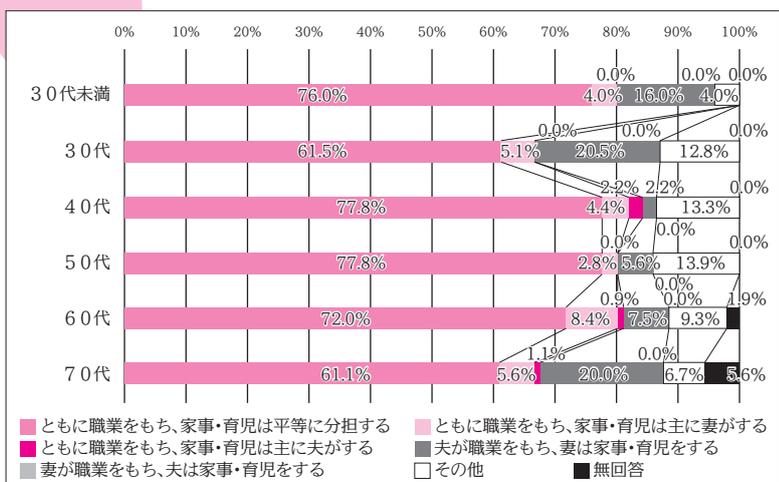


子どもの育て方については、男女ともに「同意する」が80%以上あり、将来の子どもの教育に関して理解度が進んでいると思われます。



幸手市健康福祉まつりでアンケートに協力していただいている様子

家庭における夫婦の役割分担について、あなたはどうかあるべきと思いますか？



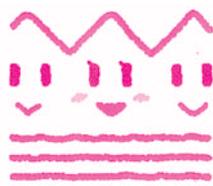
「ともに仕事をもち、家庭・育児は平等に分担する」意識が高まってきている。しかし、30代と70代は「夫が職業を持ち、妻は育児・家事をする」という考え方が比較的多い。30代は子育ての影響が比較的多いと思われます。

今後、保育所や放課後児童クラブ等の保育時間の延長など、保育内容を充実させることで、改善されていくと思われます。

アンケートを実施して

情報紙「モア」を通して、男女共同参画への意識向上と、興味、関心を寄せてほしいため、今後も企画や情報を掲載していきたいと思っております。

日本女性会議 2015 倉敷



～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～



2015年10月9日(金)・10日(土)、岡山県倉敷市で女性の社会進出の機運を一層高め、女性が彩る社会の実現を目指して、第32回「日本女性会議」が開催されました。伊東香織倉敷市長が「誰もが性別にとらわれず、一人ひとりの人間として尊重され、個性と能力を十分に発揮できる社会の実現に向け、さらなる前進の機会になることを期待します」とあいさつしました。上岡美保子実行委員長が「男性も女性もそれぞれのライフステージで直面する課題にどのように向き合い、解決への道を探っていくか、心の中の壁を乗り越え、異なった考えを認め合う、『相手への思いやり』を確認する場にしよう」と呼びかけました。

記念講演では、倉敷市生まれのNHKアナウンサー武内陶子氏の「魂の言葉を伝える～テレビの裏側・放送の現場から～」のテーマで、働く女性として、そして母として悩み、葛藤する日々を通して得たもの、紅白の総合司会を経験して出会った人との言葉を通して伝える大事さなど、私たち聞く人の胸に響く生き活きとした講演でした。

この会議に参加して特に感じたことは、倉敷市は、国に先駆けた取り組みを進め、「子育てするなら倉敷でと言われるまち」を目指していること。子どもを健やかに産み育てられる環境、子育てと仕事が両立できる環境の実現に努めていること。過疎化と高齢化が進む町を支える人材の育成・確保を進め、誰もが生涯現役で活躍できること。このことは、男女共同参画社会を目指す幸手市にとって意義深い会議となりました。また、幸手市もこのような街づくりを目指すことが大事であると痛感しました。

次回、第33回「日本女性会議」は2016年10月28日(金)・29日(土)に秋田県秋田市で開催されます。

第24回 埼葛人権を考えるつどい ～出会い ふれあい 思いやり～

第24回「埼葛人権を考えるつどい」が、10月15日(木)春日部市民文化会館で盛大に開催されました。今回のつどいのテーマは「愛」です。

春日部駅から会場まで、「愛・出会いの広場」「愛・伝えあいの道」「愛・ふれあいの広場」「愛・育みの広場」「愛・つどいの広場」「愛・学びの広場」「愛・羽ばたきの広場」があり、そこでは、老若男女、様々なたくさんの人々のかかわりがありました。

会場内には、埼葛12市町の子どもたちによる作品が飾られ、東日本大震災の被災地の復興を願う折鶴は、平成23年度以来51万羽になり会場を埋め尽くしていました。さらに、会場の外にも各市町、団体のたくさんの出店があり、温かなふれあいが各所でみられました。

会場内や、屋外のステージでは、幼、小、中、高、高齢者等各団体の演技が発表され、日頃の地道な積み重ねの成果に大きな拍手がおくられました。

その中の体験発表では、心を打つものがありました。「難病というギフトをもらった。しかし、個として生きる夢を持っている。生きる希望を感じられることが夢である。」と。当事者にとって日々の暮らしは、計り知れない苦悩の連続でしょう。彼がこう発表できるのも、本人の努力とそれを支える周囲の人々の、優しく温かい支援があるからと胸が熱くなりました。

このつどいにどれだけ多くの方々が携わったか、当日の会場運営、出演者、参加者等を考えると、膨大な数になります。かかわった一人ひとりの行動が人権を守り考えることにつながり、大きな「愛」になるのではと感じました。その「愛」を、もっともっと大きくしなければとの思いを強くしました。

次回、第25回「埼葛人権を考えるつどい」は、2016年10月13日(木)に久喜総合文化会館で開催されます。



特集

～日本女性会議2015倉敷 記念講演から～

働く女性として そして母として

NHK アナウンサー 武内 陶子 氏



〈プロフィール〉

1991年NHKに入局。松山、大阪放送局を経て東京アナウンス室に。「NHKおはよう日本」「第54回紅白歌合戦総合司会」「スタジオパークからこんにちは」など数々の番組を担当。倉敷生まれで三人の娘の母でもある。夫は東京工業大学教授の上田紀行氏。

10月9日倉敷での「日本女性会議」の記念講演で武内陶子氏、夫の上田紀行氏がリレー式で講演。最後に夫婦のトークもありました。

～悩み、迷い、葛藤する日々～

紅白歌合戦の総合司会をすることを突然発表された。私で務まるのか悩み、迷い、葛藤する日々。そんな時、故郷愛媛県の道後温泉に行った。身も知らないひとりの女性に背中を流してもらいながら「一歩踏み出してみたら」と温かく話しかけられる。私は悩んでいることなんか何も言わなかったのに。そしてこう思うようになった。「私はひとりぼっちじゃない。私たちなんだ。10年間の経験を活かし、身の丈でがんばろう。たくさんの人に育ててもらっているんだ」と。すると肩が一気に軽くなった。

「子どもを産んだら母になれる。ずっと思いこんでいた。でも産んだだけでは無理、というのが実感だった。悩み、迷い、試行錯誤し、そのときどきに感じたいろいろな課題を解決しながら、少しずつ母になっていくのではないかと考えている。

世阿弥の言葉に“初心忘るべからず”という言葉がある。人生にはたくさんの壁がある。その壁をどうやって乗り越えたか、それが忘れてはならないそれぞれの初心である。新たな壁にぶつかりながらまた一歩踏み出そう。

～夫婦でのトークのなかで～

夫の上田氏は「妻に一度も仕事をやめるよう言っていないのが僕の功績」と笑顔で話した。また、「男性社会の尺度で女性がいかに平等になるかではなく、女性の力で輝く社会にするためにはどうしたらよいか。できることを考えよう」と力を込めて話した。そして武内氏は「女性が輝けば社会がどう変わるかのところまできている。そうした女性が身近にいたらみなさまも力添えを!」と締めくくった。

編集後記

昨年11月、多くの市民の皆様方にご協力いただき、「男女共同参画意識アンケート」を実施しました。

この結果から、豊かで活力ある社会をつくっていくためには、男女がともに年齢や性別にかかわらず、一人ひとりの多様な生き方を尊重することが大事であると改めて感じました。また、仕事と家庭生活を調和させながら、人間の一生を、幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期に分けて考え、それに応じて多様な生き方を選択でき、地域社会に一層取り組んでいくことが求められているようにも感じました。

幸手市に住む男女が互いの性差や身体的特徴を理解し、これまで以上に心豊かに生き生きと暮らすことができるよう願いながら、編集しました。この「モア」が一助になれば幸いです。

表紙の絵

昨年3月、圏央道幸手ICが開通しました。これまで以上に市民一人ひとりが性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる社会をめざしてほしいと願い表現しました。